

Thomson StreetEventsSM



コンファレンス・コール議事録

GE-第2四半期収益コンファレンス・コール

開催日時:2006年7月14日午前8時30分 (東部標準時)

「本文書には「見通し情報」 - つまり、過去ではなく将来の見通しに関する情報が含まれています。その記載内容では、見通し情報は将来見込まれるビジネスや財務的業績に言及することが多く、「期待される」、「見込まれる」、「予定である」、「計画する」、「信じる」、「目指す」、「であろう」といった表現が使用されます。見通し情報では、その性格上、場合により程度は異なりますが、不確実な事項について述べられています。弊社の場合、良し悪しを問わず将来の結果に影響する可能性のある不確実性には以下のようものがあります。金利や商品価格の変動を含む金融市場の動向、処理を含む、戦略的アクション、将来における買収事業の統合、航空・鉄道輸送、エネルギー（発生）、メディア、不動産・ヘルスケア事業を含むがこれらに限定されない取引先主要産業の将来の財務的業績、弊社保険事業における予想に反する損失発生、その他、政治・経済・ビジネス・競合・規制関連の全国、地方、および国際的な規模での要因これらの不確実性により、将来における実績はこの見通し情報で述べられているものとは実質的に異なるものとなる可能性があります。弊社では見通し情報の更新を行う責任は負いません。」

会社側出席者

Thomson StreetEvents

www.streetevents.com

お問い合わせ

1

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

会社側出席者**ダン・ジャンキ**

GE – インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ジェフ・イメルト

GE – CEO

キース・シェリン

GE – シニア・バイス・プレジデント兼CFO

コンファレンス・コール出席者**ディーン・ドレー氏**

ゴールドマン・サックス – アナリスト

ピーター・ネスヴォルド氏

ベア・スターンズ – アナリスト

デイビッド・ブルースタイン氏

UBS – アナリスト

ジェフ・スプレーグ氏

シティグループ – アナリスト

ロバート・コーネル氏

リーマン・ブラザーズ – アナリスト

ニコル・パレント氏

クレジット・スイス – アナリスト

ジョン・インチ氏

メリル・リンチ – アナリスト

トニー・ボウズ氏

AG・エドワーズ – アナリスト

プレゼンテーション**オペレーター**

皆様、本日はGEの2006年度第2四半期収益に関するコンファレンス・コールにご出席いただきありがとうございます。この度、ご参加いただく皆様は聞き取りのみ可能となっております。私は、本日のコンファレンス・コールで皆様のコーディネータを務めさせていただくミッシェルと申します。(オペレーターからの説明)なお、本会議の内容は録音されます。引き続き、本日の会議主催者であり、インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデントであるダン・ジャンキ氏に進行をお願いします。では、よろしく願いいたします。

ダン・ジャンキ - GE – インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ミッシェル、どうもありがとう。皆様、コンファレンス・コールへようこそ。ジョアナと私は、本日ここに収益に関するコンファレンス・コールを主催させていただけることを大変光栄に思います。今朝6時30分に発表しました弊社のプレスリリースをご覧ください。このプレスリリースと本日のプレゼンテーションの補足的情報は、弊社の投資者向けウェブサイトwww.ge.com/investorからご利用いただけます。オンラインでご覧いただくことも、ダウンロードしてプリントアウトしてからご覧いただくこともできます。

このプレゼンテーションには現時点における世界情勢および経済状況に基づく見通し情報が含まれていることをお忘れなく。実際の結果はこの記載内容とは異なる可能性があることをご了承ください。本日は、第2四半期の収益について報告し、第3四半期の見通しを述べた後、皆様からのご質問にお答えします。これに先立ち、弊社のCEOジェフ・イメルト、またシニア・バイス・プレジデント兼CFOのキース・シェリンをお迎えしています。ではジェフ、よろしく願いいたします。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ダン、ありがとう。皆様、おはようございます。早速始めさせていただきます。

今四半期も会社にとって非常に良い四半期であったと思います。まず、環境について少し話しておきましょう。追い風成分としては、弊社の経済性および製品市場は引き続き非常に堅調であり、GEのほとんどすべてのセグメントで良好な活動が見られています。

過去2年前後にわたり取り組んできた変動しつつあるエネルギー景観という活動分野は会社にとっての商機としてとらえることができるもので、鉄道・エネルギー・航空など弊社が技術的なリーダーである分野に資本を投入することができ、これは弊社の主要機器事業の推進に役立ってきました。さらに、世界的にも良好な成長が見られており、特に新興市場での弊社の成長は18%に達しました。資本市場における流動資金の多さ、良好なリスク環境、そして資産と貸借対照表は今期も引き続き非常に堅調です。

向かい風の成分

過去2年間インフレと取り組んできましたが、金利と商品の両面で引き続き取り組みが必要な状態です。具体的なビジネス課題としては、プラスチックは時勢を反映して明らかにより厳しい環境となっており、このことは過去2四半期の実績に反映されています。そしてNBC、これは期待通りで、NBCユニバーサルの今年度下半期に入り、良好な機運が見られるようになりました。会社の立場からは、引き続き年金収入減少に対する資金供給、今年度の下半期から2007年を見ると資金供給およびリストラの増加があります。したがって、このような環境でも確固とした優れた実績が達成されていると見なすことができ、今年度の下半期に向けての会社の現状について満足しています。

次のページに、会社の主な実績の評価指標がいくつか掲載されています。成長の面からは、注文数量の伸び率17%、収益の伸び率17%、資産の伸び率12%となっています。GE全体としてはほとんどのビジネスセグメントでかなり堅調であると言えます。1株当たりの利益の伸び率は15%で、これは推定値とほぼ一致しており、これも会社の収益成長率の一環をなしています。総資本収益率は200ベースポイント上昇し17.6%となりました。これは、投資者の皆様とよくお話することですが、会社が優先視するもので、大きな進展が見られています。

弊社の利益幅はわずかながら50ベースポイント落ちました。また会社における良好な実績の多くはNBCユニバーサルとプラスチックの不調によって相殺された感があります。しかし、これは大きな優先事項であり、下半期に入って幾分利益が見えてきました。それから、現金の伸び率は予想通り78%と非常に堅調です。したがって、会社の主な戦略的優先事項の1つは、サイクル全体での予想を超える実績を維持できるということです。これらの評価指標はこの戦略的緊急課題に沿っていると言えるでしょう。

次のページに、会社の長期的な戦略のいくつかの更新部分が掲載されています。第一の焦点は、引き続き素晴らしいビジネスを築き上げることです。この四半期には、水力発電事業、ヘルスケア事業、NBCUに投資を行いました。弊社の成長基盤は収益18%の伸びを見せており、会社の大きな戦略的優先事項と見なされていた保険ソリューションビジネスから撤退し、企業資産の再配置に伴うGEサプライの売却を発表しました。

2つ目は、信頼できる実施についてです。6事業のうち5つのセグメント別利益成長率はいずれも10%を上回るものです。インフラストラクチャーの注文は好況です。NBCUの転換は計画通りです。確固とした金融サービスの実績を達成しています。ここでもまた、マイナス面は営業利益のレバレッジで、これは下半期に展開する、全社の主要焦点の1つです。3つ目は成長イニシアチブです。素晴らしい実質成長が見られました。これについて少し詳しくお話ししますが、\$900億米ドルの長期サービス契約が締結して弊社の重要なサービス収益が12%成長しました。

組織の立場からは、\$4億米ドルに及ぶ今年度の相乗効果に向けて順調に進んでおり、企業の売却からは市場により良く対応できる組織という面でのかなりの改善が見られています。このように、会社の長期的な価値を実現し続けており、今四半期の実績および最新情報に満足しています。

次のページ

現在、社内で推し進めている大々的な戦略的イニシアチブはプロセスとしての成長です。実質成長8%の四半期連続6期目を迎えました。これはGDPの2〜3倍です。第2四半期は8%でした。ここで、素晴らしいテクノロジーとサービスに率いられたこのイニシアチブの要素についてお話ししましょう。新製品の強力なパイプラインを持っており、これにより今年度の下半期から2007年に向けて弊社を有利な位置付けにしていることになり、受注残は記録的な数となりました。機器類は28%上昇で、CSAも非常に強いレベルにあります。

イマジネーション・ブレイクスルーにより、およそ\$20〜30億米ドルの内部留保が実現されることとなりますが、そのうち3つの分野について説明します。今日、スペイン系メディアのシェアは11ポイント上昇しました。弊社のモノグラム機器の成長率は13%であり、病院設備の融資資産の成長率は33%となっています。コマーシャル・エクセレンスでは、漸増的な成長を推進して行きます。第2四半期におけるエコマジネーション製品系列の注文の成長率は20%で、オリビックスは注文額\$7億米ドルに向けて順調に伸びています。これはNBCの実績を超えるものです。これは2008年のオリンピック開催時期に受注が予想される産業注文です。

引き続き主要顧客とのプロセス改善を推進し、そのプロセスをシェアの獲得に使用しています。顧客にインパクトを与える30の無駄のない模範的なイベントがあり、これは現在、社内の大々的なイニシアチブです。世界的な成長は非常に強靱で、今四半期における開発途上国での成長率は18%となっています。これは、弊社の位置付けを確認する際にリーダーシップ・チーム内でドリルして行きます。

目標は維持可能な目に見える価値ある成長で、その達成に努力しているわけです。ここでもまた、好況な四半期が6期続き、今後の見通しもかなり良いものです。これでキースへバトンタッチします。キースは今四半期の財務詳細について報告し、後で私がまとめるものとします。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ありがとうございます。まず成長から始めましょう。第2四半期の注文は非常に堅調で、全社では\$220億米ドル、伸び率17%となっています。これは素晴らしい結果で、将来の良い前兆です。そして、左側の項目をご覧ください。主要機器、第2四半期の注文額\$80億米ドル以上、伸び率33%。投資者の皆様にはこれらの注文は時機があるため変動があることを引き続き説明しておりますが、とにかく素晴らしい四半期でした。各ビジネスをご覧になる場合、例えば航空などは良好となっています。世界全体での航空関係の注文は3倍に増加しています。

2番目はエネルギー事業で、この成長率は40%を上回っています。石油・ガス事業の成長率は25%を超えています。ヘルスケア事業の成長率は4%でした。これについては後にヘルスケア事業の説明で詳しく述べます。そして輸送
今四半期の前年比は下がっていますが、輸送でさえも、現在までの年度累計は21%伸びています。決算報告について話しますが、良い年を迎えており、完売状態です。

中ほどはサービスです。\$75億米ドル、成長率13%です。2桁の成長率は収益性の観点から素晴らしいことです。営業実績をご覧ください。全セグメントで2桁となっています。航空関係の成長率は5%です。これには次の2つの要素があります。まず、商用サービスは10%の成長を示していますが、軍用サービス事業が第2四半期に落ち込んだために、航空全体の成長率を5%まで引き下げたわけですね。累積売上は17%の成長を見せ、インフラストラクチャー全体では\$60億米ドル近くとなり、サービス事業の成長率は13%となっています。

右側のフロー事業をご覧ください。今半期の注文額\$700万米ドル近くで、8%増しです。ここでも、幅広いグローバルな成長の良好な兆しが見えています。世界の地域別の数字をご覧ください。米国は堅調で9%、欧州4%、アジア6%の成長率となっています。良好な世界的経済活動。会社全体での注文が17%増しであることは、各独創チームによる素晴らしい経済的成果であると言えます。

次に、金融サービスの中核指標のいくつかをお見せします。左側では金融サービス事業の利益幅を示しています。青色の棒グラフは純収入または拠出価額(帳簿価額)であり、これは総利益から弊社の平均資産のパーセントとして表した金利コストを減算したものです。基本的には、前年比は金融事業全体で約16ペーシスポイント減であり、右側の棒グラフのうち緑色のものはリスク調整したものです。

そこで、純益から損失を減算し、市場には流動性が多いというものの弊社の損失パフォーマンスは引き続き減少していることがわかります。ポートフォリオのクオリティは非常に良好で、そのためリスク調整済みの利益幅は安定しており、利益性を生産性と数量によって改善でき、リスク調整価格の決定方法に焦点を当てています。

右側では、ポートフォリオのクオリティを確認していただけます。30日を超える滞納額をご覧ください。これらは、引き続きポートフォリオで素晴らしい実績を示しています。コンシューマー・ファイナンスの滞納額は7ペーシスポイント増えていますが、これはグローバル・ミックスにより基本的には変動なしになっています。設備ファイナンスの滞納額は僅かに下がっていますが、これも基本的には無変動です。弊社の世界市場に基づくこのポートフォリオのクオリティにとって最良状況と言えます。右下では、設備サービス事業の利用状況が引き続き経済的な強さを示しています。今四半期の87%の利用状況を見ると、Penske、鉄道車両、トレーラーはすべて第1四半期から僅かに増しています。ここでもポートフォリオは非常に良好となっています。

ジェフが言っていたとおり、第2四半期の営業利益率は満足できるものではありません。その詳細およびそれより重要な今年度の残りの見通しを示すチャートをお見せします。パーセントの説明に入る前に、はっきりさせておきたいのは営業利益ドル額は増えているということです。しかし、社内目標では利益率も改善したいということです。左側で、第2四半期は前年度の15.4%から今年度の14.9%に落ちていることをご覧ください。50ペーシスポイント下がっており、これは実際のところ弊社にとって4つの簡単なドライバー（動因）であります。

前年比では、NBCは四半期を通して一半期を通して約10%低下しています。これにより、弊社の利益率が0.5ポイント引き下げられることになります。下半期は良いニュース/悪いニュース・ストーリーであります。まず、インフラストラクチャーの製品収益はサービス収益の2倍の割合で伸びています。素晴らしいニュースは、注文が殺到していることです。受注残が増加しており、その機器を多数出荷して既得基盤を築き上げているので、今後のサービス収益につながります。しかし、しかし、正に現時点で明らかに機器とサービス間の売上利益ミックスが存在して、これは、利益率を0.2ポイント引きずったことになります。

ジェフがプラスチックに触れましたが、引き続き価格と販売量およびインフレ間の厳しいトレードオフを経験しています。この利益率は約0.4ポイントです。そして最後に、その他の事業と生産性の0.6ポイントの増加であります。これは50ペーシスポイントの低下を意味します。右側は成長している事業を示し、下半期には約80ペーシスポイント利益幅を増加させる見通しです。これらは同じ4つの要素です。違いは、これら4つのうち3つはプラスの成長率を見せており生産性が維持されている点です。コストの抑制と価格の制御によりインフレを実績で相殺することで良好な利益幅の成長率を実現する予定です。

インフラストラクチャー・サービスの収益は下半期の製品収益に等しくなります。つまりこれはラン・レートの減速というよりは通常の比較ということになります。そしてNBCですが、第4四半期にはプラスになることをお見せしましょう。最後に、年間を通してドラスチックな物価インフレーションに引き続き取り組むと言うことです。これは引き続きプレッシャーとなることでしょう。

これについての見方を変えると、下半期にはインフラストラクチャー事業、インダストリアル事業、およびヘルスケア事業はすべて営業利益率がおよそ1.5ポイント伸びることを意味します。社内において広い層を包含した活動の中心をこれらの事業に定めた、今年度の後半における利益成長に対する明るい展望が得られています。

次に、第2四半期における連結決算についてお話しします。左側は継続事業の損益計算書です。収益
非常に堅調な実績で\$399億米ドル、成長率9%です。内訳をご覧ください

インダストリアルとファイナンシャルの両事業において収益の堅調な成長を見せています。収益は11%増で、49億ドルでした。EPS（1株当たり利益）は\$0.47、15%です。キャッシュフローの実績は素晴らしい。上半期のキャッシュフローは\$143億米ドル、78%の成長率であり、インダストリアル事業のキャッシュフローは収益の増加に沿って9%の成長率を見せています。

それから左下部分には税率が掲載されており、これらの税率は前のガイドラインに従っています。GECSを除いたGEインダストリアル事業の税率をご覧になると、第2四半期の税率は24%、本年度累計24%、これは予測にぴったり沿った数字です。GEキャピタル・サービスの税率は、年間総税率として推定したものを計上したものです。年間総税率を13%と推定、第1四半期を少し高めとして、第2四半期は11%となりましたが、これも年間総税率のガイドラインにぴったり沿っています。

第2四半期の税率を見ると、基本的には純利益に及ぼすその影響は中立的であります。ここをご覧ください。インダストリアル事業の税率は昨年度より約1.5ポイント下がっています。24%としますと、前年比は約1.5ポイント低いことになります。これにより、資本比率が前年比で1.9ポイント高いという事実が等しく相殺されています。したがって、ここでは税率による前年比の収益の質に対する影響は実質的に皆無で、これは税金に関して実施しようと言明したことときちんと首尾一貫しています。

右側では、第2四半期のセグメント実績の要約を説明します。事業別に説明すると、収益とセグメント別利益はガイダンスに沿っています。これについて順を追って説明して行くことにします。その前に、損益計算書でもう1つ話しておきたいことがあります。発表前メモに会社に対する外為の影響に関する言及がありましたので、これについてまずクリアしておこうと思います。前四半期比、前年比において、外為は収益を約1ポイント下げています。したがって、外為収益の影響がなければ、1ポイント高くなるはずですが、外為は今四半期中の前年比で平均的にドル高であったことにより、約\$5400万米ドルの純益の減収が見られました。外為の影響はあったわけで、しかもそれはマイナスでした。

次にキャッシュフローです。上半期のキャッシュフローは\$143億米ドルで、これは78%の成長率です。左側でこれがはっきりご覧いただけます。GECSの配当は\$18億から\$76億米ドルになっています。下の部分では、収益の40%、約\$19億米ドルと、GEキャピタルからの定期配当が原動力となっており、保険からの特別配当がそれに続きます。第1四半期では、約\$25億米ドル分のジェンワー

スの最終株式を所持していました。そして第2四半期には、ジェフが言ったとおり、GE保険ソリューションの売却代金\$32億米ドルを得たことは本当に喜ばしいことであり、6月9日に予定通り決算しました。

インダストリアル事業に関しても、素晴らしい四半期でした。上半期を通してのCFOAをご覧ください。\$67億米ドルで9%の増収です。これらすべてのキャッシュフローにより、上半期に\$60億米ドル分の株式の買戻しが達成できました。これで、買戻しの今年度正式目標70～90億ドルへ向けて順調に進んでいます。

右側では、定例どおり現金残高をひとつひとつ順を追って説明しています。年度の冒頭から期首現金残高でスタートしてCFOAの\$143億米ドルを追加したことがチャートの左側からお分かりいただけると思います。配当として\$52億米ドルを支払いました。\$60億米ドル分の株式を買戻しました。工場・設備費用として約\$15億ドルの出費がありました。累計買収額が\$28億米ドルありました。最大のものはIDXで、約\$14億米ドルでした。またZENONは約\$7億米ドルでした。それから負債その他の変動により今四半期が\$18億米ドルの現金で締めくくりになりました。つまり、堅調な上半期および予定通りの年間総額ということになります。CFOAの推定額\$250億米ドル、15%増収はすべり出し快調です。

事業別の説明に進む前に、第3四半期の見通しをお見せします。引き続きトップラインの堅調な増収を見せています。このVおよびポートフォリオ全体の収益Vマークによってお分かりいただけると思います。また会社全体としての第2四半期のセグメント別利益見通しはほぼ同様です。先にお約束したとおり事業別に見て行くことになりますが、

GE全体のガイダンスの右側では収益\$400億米ドルプラス、10%の増収となっており、プロセスとしての成長が四半期ごとに達成し続けているトップラインの堅調な収益をもたらしたもう1つの四半期であると言えます。会社の収益\$50～\$52億米ドル、8～14%の増収、1株当たりの収益48～50、12～16%の増収となっています。引き続き既存のガイダンスに従っており、これは3四半期を通して変更されていないことになります。\$0.48～\$0.50、12～16%ともう1つの快調な四半期です。

さて、事業別の説明に入ります。まず、インフラストラクチャー事業から始めることにします。このページにインフラストラクチャー事業の要約が記載されており、デイブ・カルフォンの世界のこのセクションにおける2つの重要事業についての情報を提供する目的で、次のページではエネルギーと航空事業に関するより詳しい内容が記載されています。全体的には、11%の増収で収益\$113億米ドルとなっています。セグメント別利益は10%増で、21億ドルでした。

左下部分をご覧ください。このセグメントには多数の事業があります。各事業について少しずつ触れることにします。まず航空事業から始めましょう。収益の伸びは11、営業利益の伸びは6でした。収益は商用エンジンの販売額の増加によるもので、これは20%増収となっています。サービス収益は10%の増収を見せ、これは25%を少し上回る減収となった軍用収益によって部分的に相殺されました。

営業利益は、基本的には次の2つの事項の影響を受けています。その1つはエンジンの売上がサービスを上回っていることです。商用エンジンの利益幅は1桁と低いのに対して、サービスと軍用収益の利益幅は30～40%です。2つ目は、GENxに関するNBI費用の出費が上半期に加速されたことです。ご覧いただければおわかりになるとと思いますが、これは実際のところわずかなタイミングの移行に過ぎず、上半期の全事業活動がなされたとなると営業利益は13%の増収と推定されます。次のページで航空事業の詳細を見て、その状況について満足していただこうと思います。

航空ファイナンス・サービスにとっては素晴らしい四半期でした。この成長の原動力は中核成長であり、基本的には昨年度の第2四半期からのUSAirによる\$5000万米ドルプラス税引き後の引当の繰返しではありません。非常な実績をおさめたことになります。エネルギー事業は第1四半期での計画どおりに立ち直りました。風力発電事業によって堅調な収益が上がっています。風力発電事業の収益は69%増し

第2四半期には427

台の風力設備が販売されましたが、これは106台を上回る伸びです。サービス収益は10%増しで、営業利益は10%増しでした。計画どおりエネルギー事業を2桁の成長率に戻せたことに満足しています。これはサービスと風力改善によってもたらされたもので、能力の改善に今後も努力して行きます。

ガスタービン事業では2005年に対するガスタービンのミックスマージンの圧縮を取り扱っているわけですが、このチームの達成した実績に満足しています。次のページではエネルギー事業の詳細をお見せします。エネルギー・ファイナンシャル・サービス事業の前年比は低下しました。このチームは良好な中核成長を見せましたが、基本的にこれは昨年度のUS Gen社（水力発電会社）の倒産による多額の現金決済という非反復性の収益に匹敵する収益が2006年にはなかったことで相殺されてしまいました。

そして最後に、石油・ガス・運輸事業ですが、これらは全く素晴らしい四半期であったと言えます。石油とガス事業を見ると、設備収益が62%増しになっています。サービス収益は23%増しで、これらは営業利益の増収に関して素晴らしい実績をもたらしました。輸送事業は素晴らしい年でした。.215

EVO機関車を215台出荷しました。これは11%増しです。受注残には機関車1500台あります。製品のコスト・ポジションを改善することで非常に良いレバレッジを得ています。そして第3四半期のインフラストラクチャー事業パッケージ全体を見ると、広範囲にわたる継続的な堅調さが認められ、セグメント全体の第3四半期の利益を15~20%と見込んでいます。

さて、エネルギーと航空事業の詳細をもう少しお見せしましょう。ここで、両事業の上半期と下半期のダイナミクスをレイアウトしてみましょう。エネルギー事業の左側から始めます。上半期では収益は6増しで、利益は6減りでした。第1四半期の利益は減収でしたが、第2四半期には2桁の増収が得られたことをお見せしました。後半では顕著な改善が継続的に見られます。収益成長率20~25%、営業利益25~30%、最大の原動力は風力発電事業です。

風力発電事業は順調に成長し続け、後半に入って堅調さを増しました。設備台数の伸びは30%を上回ります。昨年度の下半期の売上が約950台であったのに対し、今年度下半期は1300台近くになるでしょう。これはおよそ\$7億米ドルの増収です。これらの設備では利益幅が得られています。.2桁の価格の引き上げが行われ、後半の合計としては風力発電事業における営業利益の実績は約\$26000万米ドルとなると見込まれます。つまり、風力発電事業は今年度全体で利益をもたらすと言えます。そして、これは第4四半期の後半で特に顕著になるはずです。

2番目の原動力はサービスの継続的な実績です。第2四半期のサービス注文は2桁の成長を見せ16%となっています。この勢いは継続しており、エネルギー事業の下半期の収益は堅調な2桁となるものと見込まれます。3番目の原動力はガスタービン設備の実績の伸びです。今年度下半期の受注残は、昨年度の66台に対して、89台となっています。これは20台を上回る拡大です。そして、第4四半期にはエネルギー事業の利益幅の拡大が予想されており、その実績と見通しに満足しています。

右側をご覧ください。航空事業の上半期は快調であり、収益14%および営業利益13%の伸びを見せています。この事業では下半期にも堅調な実績を上げ続けています。ここでの原動力は比較しやすいと思われる。上半期のレバレッジは、GENxで述べたとおり13%増しという研究開発費の高騰の影響を受けました。しかし、今年度下半期の研究開発費は昨年度下半期の出費の高さに相当しています。ここではラン・レートの削減ではなく、それは例年のベースに既に組み込まれているということをお話ししているわけです。

エネルギー事業と同様、コマーシャル・サービスの注文も引き続き堅調に推移するでしょう。上半期の軍用収益は横ばいでしたが、下半期は上昇する見通しです。覚えていらっしゃるかもしれませんが、昨年度は軍用予算プロセスの遅延からの多額の予算未消化がありました。これによって、かなり比較検討がし易くなると期待しています。

そして最後に、上半期の商用エンジンの収益を見ます。この成長は著しいものです。収益は30%増加しています。成長率の良さは継続的ですが、ここでも比較に戻って見ますと、これらの出荷を含めても商用エンジン事業は非常に堅調であり、これは下半期との比較では7%の成長にすぎません。全体的には改善と言うことになります。年間の総営業利益は予定通り15%と見込まれます。

先に進む前に、インフラストラクチャー事業にちょっと戻りたいと思います。インフラストラクチャー事業の総注文額を見ると、現時点までの累積注文額が46%であり、現時点までの収益の伸びは10%です。受注残の継続的な増加が見られ、また大量の設備を出荷しており、既得基盤を構築しているので、将来の素晴らしいサービス事業と利益幅の拡大につながるはずです。

では、コマーシャル・ファイナンス事業に移しましょう。チームにとってはもう1つの素晴らしい四半期となりました。これは数字を見ればわかります。収益は12%増収、セグメント別利益は21%増収でした。収益の成長は、収益33%の増収を見せた資金ソリューションと収益39%の増収を見せた不動産の両事業の堅調な実績によってもたらされました。この事業における資産は、2005年の第2四半期に比べて11%の伸びが見られ、これは過去8期にわたる四半期中で最も堅調なものです。これは、主として不動産と資金ソリューション事業双方の素晴らしい組織力の賜物です。

なお、買収もいくつか行いました。例えば、アーデン取引からの\$33億米ドル相当の資産などがあります。したがって、これらの買収による収益も多少加味されています。しかし、中核成長が非常に堅調であり、右上の部分に示されているとおり取引量の多さと広範さが重要な要因であったことは明らかです。異なる事業間の数字を見ることができ、弊社は多角化に優れており、独創チームはそれぞれ素晴らしい仕事をしています。収益性の高い成長をもたらす多数の市場活動が見られています。

セグメント別利益は、中核成長からもたらされると言えます。今四半期には買収による約\$2000万米ドルの出資がありましたが、これは証券化費用が\$2000万米ドル低減したことで相殺されました。つまり、全チームは収益の達成に非常に素晴らしい成果を上

げていることになります。先にも申しましたが、ポートフォリオの質は非常に堅調で、無収益、滞納額、償却費の計上はすべて前年度および歴史的平均より低減しています。そして、現時点における第3四半期の見通しはほぼ同様に、セグメント別利益の成長率を10〜15%と見なしています。コマーシャル・ファイナンス・チームは非常に素晴らしい実績を上げています。

次はインダストリアル事業です。非常に手応えのある四半期でした。収益\$88億米ドル、6%の増収、そして彼らは15%の増収、セグメント別利益のレバレッジを実現するという偉大な業績をおさめました。基本的には、左下部分を見ると、C&Iは収益\$38億米ドル、セグメント別利益\$3億1800万米ドル、40%の増収という素晴らしい四半期を達成したと言えます。had a great quarter, \$3.8 billion of revenue and \$318 million of segment profit, up 40%. 価格と生産性は材料費のインフレおよびこの事業におけるその他のインフレの影響を相殺した上に余剰を生み出し、また販売量も良好です。彼らは、ハイエンドの戦略、機器のミックスに優れた手腕を発揮し、インダストリアル・セグメントにおける広範囲の成長を達成しています。

プラスチック事業は困難な四半期を経験しました。収益は3%増収でしたが、営業利益は12%減収となっています。一方、プラスチックの販売量は非常に堅調です。販売量は10%増しで、多様なインダストリ・セグメントにおける相当広範囲の成長を見せていますが、ある程度自動車事業によって相殺されています。しかしながら、不調の真の要因は価格です。今年度の第2四半期の価格はkg当たり387でした。昨年度の同期の価格はkg当たり411であったので、6%減となります。販売量の増加による\$6000万米ドルを上回るマージンはこの価格の低減により相殺され、約\$1億米ドルの減収という結果に終わりました。

ベンゼンは今四半期あまり影響はありませんでした。1ガロン当たり\$3と変動はありませんでしたが、販売量と価格のミックスによる営業利益は多くの生産性とチームの活動に関わらず12%減となりました。したがって、第3四半期を見積もるとき、このセグメントに対しては同様のダイナミクスを見ることになります。セグメント別利益を15%以上上げる予定です。C&Iを継続させます。異なる事業で堅調な販売量が多く見られています。インフレを相殺するために価格の繰越しを継続し、プラスチックの価格、販売量、インフレの方程式における最適化を検討する必要があります。第3四半期のベンゼンには注意を払う必要があります。このチャートでは、ベンゼンには7月に387というスパイクがありますが、そのインパクトを含めたプラスチックに対する第3四半期の見通しはほぼ平坦です。このため、セグメント全体の利益は15%増しで、このプラスチックのダイナミクスを見守ることになります。

次はNBCUです。NBCUは今四半期は不調でしたが、最終的にはガイダンス通りになりました。収益は横ばい状態でセグメント別利益は約10%減でした。このプロファイルは予想通りでした。プライム、ステーション、テレビ制作の営業利益は予測どおり約45%減でした。これは最終です。第3四半期は昨年度からの先行投資を取り扱う最終四半期であるため、期待通りに事が運びますが、ここでも進展が見られています。事業のバランスを見ると、営業利益は5%増しで明るい話題が沢山あります。夏の視聴率は10%上昇しました。ニュース・ケーブルの今四半期の営業利益は28%増しでした。CNBCの実績は良好です。MSNBCプライムは上昇。エンターテインメント・ケーブルは素晴らしい。USAはナンバーワンのケーブル・ネットワークです。

そして最後に、今四半期では第1四半期に話したステーションの売却が行われ、これは昨年度IACI/Paxsonから得た収入額およそ\$2億米ドルと相殺されました。

したがって、NBCUの最も前向きなハイライトは、第3四半期が昨年度の先行インパクトと比較する最後の四半期であることです。プロファイルの進展を見ると、第3四半期は上半期と類似しており、営業利益は5〜10%減でしたが、第4四半期でプラスとなり、これは非常に良いニュースです。弊社はこの事業に力を入れており、進展が見えています。

右側の結果をご覧ください。まず、'06/'07シーズンの総先行投資は\$38億5000万米ドルとなっています。これにはプライム、NFL、ケーブル、その他の番組が含まれていますが、チームの活動は素晴らしいものであったにもかかわらずこれは0.5%の伸びに過ぎません。弊社の新しいプライム時間ラインナップに対する早期の反応に満足しています。スタジオ60、フライディ・ナイト・ライト、ヒーロー、キッドナップド、30ロックなどのショーについては好ましい反応が多数得られています。そしてNFLに対しては非常に多くのフィードバックを受け取っています。ここでの秋季に向けての弊社の位置付けに満足しています。

次に、プライムの外ではあらゆる場所で成功しています。テレマンドはプラス、ケーブルもプラス、そしてニュースとトゥデイの周囲はすべてプラスです。ローカルも成功。テレマンドでは、このスペイン語番組の各\$1の成長に対し3分の2を受け取ります。トゥデイ・ショーは聴衆者の20%のリードを得ており、過去4週間の実績はかつてなく堅調です。以上、このポートフォリオには多数のプラス要素が含まれています。

我々がしなければならないことは、第3および第4四半期のプロファイルについて皆様に情報を提供し続けることです。フィルム・ダイナミクスは下半期において非常にプラスの要素となります。まず、第3四半期には、収益をもたらす9つのリリースがあります。これが、第3四半期のトップラインがこのように堅調となっている理由です。今週末を含め、”You, Me and

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

Dupree”があり、月末には”Miami

Vice”が登場します。これらは第3四半期におけるトップラインをもたらすかなり前向きなフィルム・リリース・スケジュールです。

そして最後に、第4四半期は比較して極めて有利であり、これは営業利益の改善に役立つもので、大きな原動力の1つでプラスになる理由でもあります。皆様も覚えていらっしゃると思いますが、昨年度の第4四半期は「キング・コング」でした。宣伝とプロモーションに莫大な金額をかけました。第4四半期にはそのようなブロックバスター・ムービーはありません。そして、フィルム会計のしくみが機能するので、フィルムの第4四半期には非常に前向きな比較が行われることになります。

そして最後に、デジタル配信の加速があります。ご存知のとおり、弊社のデジタル戦略、NBC

360は先行投資の一部として活動し、\$3億米ドルの収益をもたらす役に立ち、iVillageは好調なスタートを切りました。NBCを見るとき、その進展に満足しており、弊社ではその進展に全力をあげています。第3四半期のプロファイルは上半期のものと類似していますが、第4四半期に非常に期待しています。

最後にヘルスケアとコンシューマー・ファイナンス事業ですが、ヘルスケア事業は引き続き素晴らしい四半期でした。収益を見ますと、10%増しで、セグメント別利益は良好なレバレッジで18%増しとなっています。これは非常に広範囲な成長を見せています。トップラインはテクノロジー事業によってもたらされ、11%増しとなっています。パイオサイエンス事業は7%増収でした。サービスとMR、医療診断と超音波が堅調です。テクノロジーとパイオサイエンスの両事業で素晴らしい営業利益が得られています。この事業での利益幅は1.3ポイント拡大されました。ほぼ4%の総コスト生産性が得られており、この事業は新製品の初回および流通、サービスの両面で素晴らしい実績をおさめています。

しかし、監視を続けている1地域として中国があります。設備の追加速度が減速しています。注文書の表紙に書かれている弊社の設備の注文は4%増しとなっています。中国進出前の設備注文は7%の伸びを見せていました。したがって、これは良いニュースで、これは弊社の事業全体の小さい一部で成長を再開していますが、第2四半期の現時点ではやや減速気味で、この状況は数カ月続くものと予想されるので監視が必要です。第3四半期の見通しをご覧くださいと、設備とサービスにおいて引き続き堅調なトップライン成長が見られ、セグメント別利益は15~20%増しと見込まれています。

右側をご覧くださいとお分かりいただけるように、コンシューマー・ファイナンス事業にとっても引き続き大変充実した四半期となりました。収益は7%増しでしたが、外為の影響で3ポイント減となりました。グローバル・ローカル収益の数字は約10%となると思われます。セグメント別利益は20%増しでこれは中核成長によってもたらされました。セグメントの詳細をお見せします。非常に堅調な収益が見られています。ご覧ください。南北アメリカは34%増しです。これは、弊社のプライベート・ラベル・クレジットカードとセールス・ファイナンスおよび南北アメリカの資産は26%増しでした。債務滞納額は低減しており、非常に良いポートフォリオの実績を維持できます。

昨年度の第4四半期には、ご存知のとおり倒産のスパイクがありました。法律の改正によって誰もが申請したわけです。それによって継続的な恩恵もたらされました。U.S.社の30日間の滞納額は前年比が15ペーシスポイント低下しました。これは第1四半期から18ペーシスポイント下がったことになり、倒産の減少によって不良債権処理が20ペーシスポイント低下しました。このように、ポートフォリオの質は非常に堅調で、低下の兆しは見られていません。

ヨーロッパは22%増しであり、これは中央および東ヨーロッパの中核成長およびイギリスの中核成長によってもたらされたものです。そして資産全体は13%増しで、ポートフォリオのクオリティは非常に堅調です。これがグローバルに関する良いニュースです。しかし、監視を続けている1地域として日本があります。ここでは、競争と規制によるプレッシャーにより収益は14%減となっています。日本における増収率の上限に関する話はお聞きになっておられると思います。これに関し、政府レベルで働きかけていますが、この影響は2007年の下半期あるいは2008年にならないと感じられないと思われれます。したがって、弊社の対応時間は十分にあると言えます。それでも日本での収益\$1億米ドル、40%

ROEが見られています。ここでは堅調な業績を上げています。第3四半期のコンシューマー事業を見ると、継続的に良好な資産の成長と良好な資産の質に基づくセグメント別利益が10~15%伸びていることがわかります。

ジェフにマイクを戻す前に、今年度全体に対する会社項目について話したいと思います。弊社のようなサイズの会社には常に項目がいくつかあり、プレスで最近話したインダストリアル事業の処分活動があるため、その影響を要約すると役に立つと思います。左側に見られるように、2006年全体において、利得からの何らかの恩恵を期待しています。例えば、第2四半期にはPenskeの9%をPenskeに売り戻し、約1%の利得を得ました。また、GE SupplyをRexelに売却する契約を締結し、これは第3四半期の締結されることになっていますが、これによりさらに\$0.01の利得が得られ、今年度の残り部分における活動が活発化する可能性があります。

そして、ここでの素晴らしいニュースとして、インダストリアル資産の配置転換があり、資本が利得を伴ってくるということがあります。右側をご覧ください。相殺が多数あります。第2四半期には、約\$4500万米ドルのリストラ関連の負担がありました。今年度の残り部分でも引き続きその他のリストラ・オプションおよび活動を検討していく予定です。そして、年間を見るに当たり、既に述べましたが、より高額な現金以外の年金出費があります。ここで、\$0.04には早期退職プログラム用のリストラが含まれており、これはコスト低減および将来の収益性を改善するもう一つの方法だと言えます。

年間を見る場合、利得と損失がありますが、これらは弊社の年間ガイダンスに含まれています。プラスとマイナスと取り組むことが必要ですが、真の焦点はわれわれの達成する優れた事業実績に置くべきです。これをもち、ジェフにマイクを戻します。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ありがとう、キース。2006年の総まとめとして、要点を繰り返し、会社の前進についての考え方を知っていただこうと思います。事業別には、インフラストラクチャー事業は予定通り15%プラスの営業利益成長を見せています。ここでも、キースが言ったとおり、設備の受注残の出荷およびより良いサービスの成長という下半期における好ましい勢いが感じられます。コマーシャル・ファイナンス、コンシューマー・ファイナンス、そしてヘルスケア事業では、すべて順調で良好な勢いをしています。

インダストリアル事業では、プラスチックが1年前の予測を下回っているものの、セグメントの他の部分は期待を上回る実績を上げているのでガイダンスに沿っていると言えます。そしてNBCUについてはお話ししており、おおまかなところ年間の予想通りで、第3と4四半期にはいくつかの前向きな兆しが見えてくることになります。ガイダンスどおりだと思います。

全セグメントを見ると、全事業として年間15%の伸びが見られるはずで、昨年にご提供したその他の情報とかなり一致していると思っています。したがって、会社の前進を見てみますと、誰もが明らかにより広範囲のマクロ経済の観点から状況を判断し、世界各地で何が行われているかを判断することになりますが、弊社はサイクルを通して実績を上げる多様性に富む会社として築き上げられてきたわけです。

このため、今日の世界における弊社の位置付けに満足しています。第3四半期の1株当たりの収益\$0.48~\$0.50、12~16%の伸びは達成できるものと確信しており、また第4四半期の1株当たりの収益の伸び13~16%はかなり確実な線であると感じています。したがって、今年度全体のガイダンスに変更を加えるつもりはありませんが、今まで見てきた受注残、弊社が優れていると思っている会社経営手法及び首尾一貫した実行に基づいて、今年度の第2四半期に行った皆様に対する約束を実現することに自信があります。

環境の観点から要約してまとめると、GE事業に対して実質的な見通しであると思われるということです。注文率の低減は見られておらず、引き続き堅調な勢いが維持されていると感じています。財務実績は計画どおりで、期待に沿っています。戦略の実施については、ポートフォリオ関連で行うと言ったことを引き続き行っていきます。弊社の信じる成長イニシアチブは、2~3倍のGDPの6~8四半期を見た場合の堅調な勢いを持っており、今年度の第3および4四半期の非常に良い見通しとなると考えます。

2006年の堅調な第2四半期により、本年の下半期における非常に好ましい見通しが得られることを信じています。ダン、マイクを戻します。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

以上です。ありがとう、ジェフ。今から質問を受け付けたいと思います。では、ミッシェルお願いします。

質疑応答

オペレーター

(オペレーターからの説明)ゴールドマン・サックスのディーナ・ドレー氏です。

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

2006年のガイダンスに関する質問： \$1.94～
 \$2.02ガイダンスのハイエンドを達成するには、今年度の現時点で何が行くことが必要ですか？NBCはほぼ期待に沿ってうまく行っているようですが、プラスティックはやや不調のようですね。どうすれば、この範囲の高い方の値に戻ることができるのでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ディーン、この範囲の高値に戻すには、プラスティックの実績の改善が必要だと思われます。それから、今年度の残り期間において引き続きNBCUの業績の好転が見られることも望んでいます。つまり、この範囲のハイエンドをもたらす要因という点では、EPGで話したことに非常に一致していると思います。

しかし、繰り返しますが、あなたが弊社についてどのように考えてもらいたかのまあ方法に戻りたいです。あなたが弊社についてどのように考えてもらいたかの方法は、弊社が実行していると言明したことの約束を果たす際の本当の自信であります。このため、今年度の期首に各四半期の実績の目安を表すのに使った\$0.48～\$0.50を見た場合、これらは良い数字で、達成可能であるという多大な自信を持っています。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ジェフ、最近のEPGコンファレンスでのあなたの発言の一つに、NBCは2007年における増収の一助となるところまでこぎつけたと見なしておられるとのことでしたが、この予想は今でも妥当なものとお考えですか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

そうです。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

それは何よりです。最後にもう一つ。2007年の年金についてですが、これが横ばいになる時点の予測を立てるには時期が早すぎますか？つまり、\$0.04という向かい風成分はなくなるのでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ディーン、これについては、年度末における割引率を知るまでは残念ながら最終化できませんので、現時点では時期尚早と思われます。これらは実際、社債キャッシュフローに基づき年金基金からの資金の流出を推定することで12月末に設定されます。このため、10年ダブルA社債が良いでしょうし、今日金利が今年度末の利率に凍結されたとするとこれで横ばいになるでしょう。しかし、ここでも金利の変動を見て、12月31日にどうなるかを推定する必要があります。現在値のままであれば、横ばいになるはずですが。

ディーン・ドレー氏 - ゴールドマン・サックス - アナリスト

ありがとうございました。

オペレーター

ベア・スターンズのピーター・ネスヴォルド氏です。

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

ピーター・ネスヴォルド氏 - ベア・スターンズ - アナリスト

まず、アンからの質問です。今年度の後半におけるリストラの見通しとその対象事業についてお教えてください。それから、これは事業部レベルでしょうか、それとも全社的でしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

基本的には、リストラを見た場合、下半期に見返りが最大のものに焦点を置くことになります。インダストリアル事業部に良い見返りが得られる対象物があります。インフラストラクチャー事業部にも良い見返りが得られる対象物があります。したがって、これらの2事業部門でリストラ活動が行われることになるでしょう。

また、常時実施されている早期退職プログラムは、米国ではほぼ弊社の組合の線に沿っています。これは主としてインダストリアルとインフラストラクチャーの両事業全体に広がっており、事業部レベルと多少全社レベルの両方で行われます。今日、分割することは困難です。

ピーター・ネスヴォルド氏 - ベア・スターンズ - アナリスト

その計画は今年度が始まってから加速されましたか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

リストラ計画に一部追加がありました。第2四半期には、先に申し上げたとおり、約\$4500万米ドルのリストラがありました。通年の見通しは、\$0.02にも及ぶものと思われます。

ピーター・ネスヴォルド氏 - ベア・スターンズ - アナリスト

わかりました。通年額でしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

そうです。通年額です。これは、先に述べた会社の利益と用途のページに関連しています。

ピーター・ネスヴォルド氏 - ベア・スターンズ - アナリスト

わかりました。フォローアップの質問があります。Penskeの売却時期と金額は、直観的には理解しがたいのですが。9%の売却、リースサイクルはかなり堅調のようですが、四半期のかなり後の方のようでした。その時機と売却のサイズは何によって決定されたかです。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

当然のことながら、インダストリアル事業のジョン・ライスの協力を得てインダストリアル事業における資金移動のチャンスを探っていました。戦略的には、より高度成長分野に移動させることが好ましく、ちょうどPenskeが同社の所有権位置を改善するために株式の購入を望んでおり、合意に達したわけです。

プレスリリースをご覧になるとおわかりいただけると思いますが、究極的には徐々に50-50のパートナーシップへ移行することを目指しています。インダストリアル事業部ではこれは定期的に行われているプログラムで、今後共にジョンは資金をより高度成長分野へ移動するチャンスを探り続けることになるでしょう。

ピーター・ネスヴォルド氏 - ベア・スターンズ - アナリスト

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

わかりました。

オペレーター

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

キース、お話をいただいた日本の上限についてですが、日本がその上限を例えば20%に下げたとした場合、どのような影響があるでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

それに関する数字は手持ちにありません。この事業は第2四半期に約\$1億米ドルの収益を上げています。ROEは良好です。20%代の高値から日本側が設定する値までの間の上限値がもたらす影響を見ることが必要でしょう。そして、その間で、生産性に焦点を維持することが必要であり、コストを取り出して、リスクベースの価格決定を行うことが必要です。その他の事業開発活動も検討しています。

将来を見ると、オプションは多数あります。しかしながら、その影響は今年度には感じられないでしょう。日本政府および財界のリーダーとの交渉が多数もたれていますが、2007年の下半期または2008年初旬までは何も起こらないと思われます。これは、その間、時間をかけて検討を行い、前向きに対応できることを意味します。

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

日本における現在の資産ベースは何でしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

デービッド、この数字は手元にないので、後で入手する必要があります。

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

わかりました。では、NBCに移るとします。今シーズンの総可比価格はいくらでしたか？総価格は0.5%増しということでしたが、同一条件での比較ではこの数字はどうなるでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

分割することは難しいですね。プライムでは、CPMだったと思いますが約5%減でした。ケーブルでは、増加がいくつかありました。そして全体では、少し減少していますが、減少分を減らすためにいくつか助けとなったことがありました。その1つはNFLです。2つ目は、デジタル戦略で多数の番組を引き込むことで、アップフロントの収益がわずかながら増えました。3つ目は、ケーブルと昼番組そして深夜番組すべてで素晴らしい実績が上がっていることです。プライムはまだ多少CPMに関するプレッシャーがかかっていましたが、現時点では、CPMに関しては他のネットワークと同等であると思います。もっと先では予定通り実績が上げられるようになるでしょう。

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

わかりました。後もう一つだけ --

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ジェフ、- については？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

そうです。デービッド、キースが先ほど述べたことに一つだけ追加したいことは、このビジネスモデルでは2007年のNBCUの収益が大幅なプラスになるためにプライムタイム・ネットワークになる必要はないということです。それから、キースの話の内容で励みになることは、それ以外のNBCユニバーサルは現在非常に良い実績を上げているということで、これは今年の第4四半期と2007年の増収への推進力になると思われます。

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

わかりました。もう2つささいな質問があります。コマーシャルのニールセン視聴率調査は影響すると思いますか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

時期が早すぎてまだ判断できませんが、避けられないと思います。これは我々のビジネス・プランニングの中で自分たちで行ったようなものだと思いますが。つまるところは良い内容ということで、これはまた我々の元来のビジネス・モデルでもあります。

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

わかりました。そして最後に、キース、第3四半期におけるGEとGECSの予測税率は、通年税率に等しいもののでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

それが現在の予測です。

デイビッド・ブルースタイン氏 - UBS - アナリスト

どうもありがとうございました。

オペレーター

シティグループのジェフ・スプレーグ氏です。

ジェフ・スプレーグ氏 - シティグループ - アナリスト

この業務レバレッジに関する質問を、もう少し掘り下げてみていいですか？まず、サービスと製品が等しくなるというコメントですが、これはバランスをとるための一方の加速または減速を意味するものですか、それとも製品側の比較の難しさを均すためでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

私はインフラストラクチャー業務について話していたわけです。第2四半期を見ると、インフラストラクチャー製品の収益率は20%近く伸びており、インフラストラクチャー全体におけるサービスの収益は約8~9%増しでした。つまり、機器の出荷の伸びはサービス収益の伸びの2倍でした。さて、下半期も機器の出荷はこの好調なペースが継続することになります。

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

ここでの違いは、堅調な機器の出荷によって昨年度の下半期にわずかながら近づいたという点です。したがって、ジェフ、これは設置基盤の継続的な構築の減速というわけではなく、サービスと機器のミックスの異なる比較ということに過ぎません。

ジェフ・スプレーグ氏 - シティグループ - アナリスト

そして製品サイドでは、ポートフォリオの製品における営業利益幅レバレッジを得始めましたか、それともいまだ製品利益幅の伸びの妨げとなっているバックログ等の問題の解決に取り組んでいる状態ですか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

事業によって異なります。トランスポーターション事業などをご覧くださいと、新製品に対して何が行われたかお分かりいただけるとと思います。レバレッジが見えるはずですが。新製品を市場投入し、燃料仕様を満たして、非常に大量のシェアを獲得しましたが、究極的な利益性に必要な製品コストがありませんでした。機関車を出荷するにつれて学習曲線に沿うようになり、その結果がおわかりいただけるとと思います。

エネルギー事業をご覧くださいと、ガスタービンと利益幅が現在のものより少し大きいユニットに関する比較の問題とまだ取り組んでいる状態です。価格、第2四半期のエネルギーとガスサービス事業は約3%減でした。これは、エネルギー事業における利益幅に関するプレッシャーとなります。先に進んで、新しい注文の価格は約2%減でしたので、これは引き続き競争力を持つことになりま。一方、風力ユニットをご覧くださいと価格は11%増しでした。風力収益の成長がおわかりになるでしょう。

このように、事業によって異なると思います。これは全社レベルで取り上げられています。社内で最も利益幅を上げたトップ100の製品マネージャーを見えています。新製品の紹介プロセスと利益幅プロセスを見えています。これは、大きな焦点となっています。

ジェフ・スプレーグ氏 - シティグループ - アナリスト

そして、ここまでとは無関係なフォローアップがもう一つ。コンシューマー事業
滞納額は安定しているようです。平均支払額が小さいとカストレスの早期発見に役立つ警告的な兆しはありますか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ジェフ、そのような兆しはありませんでした。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

当然、毎日そのような兆しを監視していますが、今のところポートフォリオの質は申し分なく、グローバルに安定しています。

ジェフ・スプレーグ氏 - シティグループ - アナリスト

それは素晴らしい。

オペレーター

リーマン・ブラザーズのロバート・コーネル氏です。

ロバート・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

先ほど取り上げられた営業レバレッジについて少しフォローアップしたいと思います。あなた方は成長戦略を推し進めて実質的な成長を得ていますね。もちろん、NBCU、プラスチック、そしてキースが話した製品ミックスについて説明いただきました。しか

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

しながら、実際のところ、会社の成長のために全体として予想以上に高くついているということはないでしょうか？GEnxに関するR&Dの費用などについてお話いただきましたが、かなり魅力のある成長率を得るための総コストとの関連でのその展望を少しお話ください。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ボブ、そうとは思いません。キースが話したとおり、第2四半期における営業利益率に影響した要素にはNBCU、プラスチック、その製品とサービスのミックスの3つあると思います。G&Aを収益のパーセントで見ると、今年度は100ベースポイント減となると思われます。それでも会社としては生産性当たりの総コスト4%を得ることができるでしょう。インフレのプレッシャーがあることは明らかです -- プラスチックなど --

今年度はこれに関して少しコストがかかると思われます。しかし、これはある程度予想されていたことであり、下半期には巻き戻されて追い風成分となると思います。

ロバート・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

わかりました。ヘルスケア事業ですが、中国以外では7%増しとおっしゃいましたが、やや軽いと思われます。これについて少しご説明ください。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ヘルスケア事業の注文を見ると、全体の合計は6%増し、機器は4%増し、中国以外では7%増しとなっています。これについてはいくつかコメントがあります。まず、かなり広範囲な堅調さです。超音波は18%増し、医療診断は13%増し、デジタルX線は19%増しでした。CTは約15%減でしたが、昨年度VCTの非常な成長を思い出してください。VCTの成長率は29%でしたが、昨年度の上半期のCTの注文は50%増しであったことにより比較が困難になったわけです。

つまり、CTではかなり困難な注文期間と比較していることになります。これにもかかわらず、健闘していると言えます。CTの収益を見ると、販売は4%増しになっています。第2四半期にはほぼ200台のVCTを販売しており、これは昨年度から50%増しで、バックログは24%増しです。注文は減りましたが、しばらくの間このバックログから埋め込むことでハイエンドに留まっています。

MRは約4%減でした。これは中国以外ではかなり横ばいでしたが、HDMRでは健闘しています。バックログは50%増しで、注文されたMRのほとんどすべての1.5と3TにはHDが搭載されていました。したがって、サービス注文全体は15%増し、バイオサイエンスは8%増しであるのでかなり満足しています。CTそしてMRでは少し困難な比較を行っていると思いますが、テクノロジーとバックログの状況については満足しています。つまり、ボブ、これは監視の対象ですが、かなり広範囲な堅調さがうかがえます。

ロバート・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

フォローアップの質問が一つあります。アップフロントの実績とケーブルその他の見通しに基づきGECS NBCUの収益は来年度の伸びが期待されていることを耳にしています。これは2006年との比較での2007年の営業利益についてでしょうか？このことでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

NBCUからですか、ボブ？

ロバート・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

そうです。

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

EPGで提供したフィードバックはNBCユニバーサルが来年度の実績を上げるための感触を述べたものです。ここでもまた、キースが言ったこのビジネスに打ち込むという言葉の思い出します。各部分をご覧ください。アップフロントとプライムタイムの取り巻きによってネットワークの安定化が可能となるでしょう。これは、残りのNBCユニバーサルの持つその他の推進力から見て、追加する必要がある唯一のものです。これが我々の展望です。

ロバート・コーネル氏 - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

わかりました。どうもありがとう。

オペレーター

ニコル・バレント氏 - クレジット・スイス

ニコル・バレント氏 - クレジット・スイス - アナリスト

おはようございます。またまたレバレッジについてですが、事業別のサービスについてどのように考えるべきか、特にインフラストラクチャー事業で2000年代の終りを予測する際にそれは利益幅にどのように影響するとお考えですか？鉄道の出荷の好成績からして、サービスは非常に堅調さが継続するものと思われます。エネルギー事業では、ポートフォリオの多様化が行われていますね。石油・ガス事業のサービスはいつどのように行われるものかを教えていただけますか？

そして水力事業—

デープの話では、水力事業のサービスモデルは従来のインフラストラクチャーとは若干異なるとのことでしたが、今後2年間でサービスの強化が見られるでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ニコル、中核事業にこだわるべきです。航空事業を見るときは我々が築いた設置基盤を、そしてエネルギー事業でも我々が築いた設置基盤をご覧ください。石油・ガス事業でも同じです。これらは非常にリッチなサービス事業です。トランスポーテーション事業を見てください。これも素晴らしいサービス事業を持っていると言えます。風力事業は正直なところ大したサービス事業を持っていません。そして水力事業はモデルより少し異なっています。

しかし、これらの中核インダストリアル・インフラストラクチャー事業を見た場合、収益が会社の平均より高速に成長しており、利息幅が高く資金が低く、現在と2010年の間で35%を上回る利益幅を持つサービス収益から\$2000億米ドルを期待できます。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

そうですね、ニコル、主として設置基盤が大きくなるという理由でのみ我々のサービス・ビジネス・モデルは改善されたと言えるでしょう。サービス事業を収益が\$300億米ドルに近く、営業利益が30%に近い現状に至ったのは設置基盤の優れた展望、およそ10%のトップライン収益成長率、しかもそれに生産性プログラムと価格決定プログラムそして[会計サービス]のもたらすレバレッジが加わったものとして見る必要があります。つまり、良い事尽くしです。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

EPGでサービス・チャートと利益幅の重要性をお見せしようとしたのですが...今後の見通しの箇所をご覧くださいと、ジェフが先ほど話したサービス・ミックスからの通年の営業利益率50~80ペーシスポイントの改善を予測しています。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

機器に戻ってください。かなり良い市場を持っているだけでなく、マーケット・シェアを獲得し、優れた鉄道製品を持っているということです。航空エンジンでは信じがたいほどの実績を達成しました。風力事業の生産レートは現在\$40億米ドルです。つまり、素晴らしい実績をおさめており、これはトップラインの成長を推進し、今後の優れたサービス戦略へとつながることになります。

ニコル・パレント氏 - クレジット・スイス - アナリスト

なるほど、それでわかりました。機器サービス事業について、一つダブルチェックしたいことがあります。純益60がありますが、これにはPenskeの一部売却による\$9000万米ドルの収益が含まれているのでしょうか -

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

いいえ、含まれていません。これはすべて会社会計となります。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

いいえ、会社会計となります。

ニコル・パレント氏 - クレジット・スイス - アナリスト

わかりました、結構です。最後にヘルスケア事業の質問が一つ。バイオサイエンスはいくらでしたか？7増しだったとお聞きしたように思いますが、第2四半期の蛋白質の分離と創薬はどう考えるべきでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ヘルスケア事業を見ると、バイオサイエンスの注文は8増し、医療診断は13増し、ライフサイエンスは1増しでした。

ニコル・パレント氏 - クレジット・スイス - アナリスト

収益の数字は？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

収益 - 医療診断は12増しでした。

ニコル・パレント氏 - クレジット・スイス - アナリスト

蛋白質の分離は？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

蛋白質分離の数字は後で入手する必要があります (複数発言者)。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

2または3%だったと思います。

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ほぼ横ばい？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

そうです。

ニコル・バレント氏 - クレジット・スイス - アナリスト

わかりました。どうもありがとう。

オペレーター

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

キース、GEインダストリアルスの今期の実質収益ベースまたは成長率はいくらでしたか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

8% --8だったと思います。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

8でしたか。それでは今四半期と前四半期の価格はどうでしたか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

会社全体を見ると、この影響は最小限でした。全体で\$2800万米ドルあり、会社の価格指標でこれは1/10ポイント減でした。事業には多数の異なるミックスがあります。インダストリアル事業の価格は非常に良いものです。インフラストラクチャー事業の価格は平均的です。ヘルスケア事業の価格は僅かに下がりました。（複数発言者）2%弱の減少でしたが、通常は約3%減です。実際のところ、改善されたというわけです。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

申し訳ありませんが、何が改善されたのでしょうか？製品があったのでしょうか（複数発言者）。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ヘルスケアの価格です。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

ヘルスケアが改善されたわけですか？

2006年4月13日午前8時30分 東部標準時 第1四半期 収益に関するコンファレンス・コール

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ヘルスケア事業の価格は過去2年間平均3%減でした。この四半期には2%弱の減少でした。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

わかりました。今年度の残りを見て、自社のイニシアチブまたは市場の動向により、その他の事業で価格が多少とも好ましい傾向を見せているものがありますか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

ジョン、サービス事業の価格に引き続き焦点を合わせるべきだと思います。

ジョン・インチ氏 - メリル・リンチ - アナリスト

わかりました。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ミッシェル、最後の質問をお願いします。

オペレーター

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

製品をはっきりさせたいだけです--

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

トニー、申し訳ございませんが、接続が切れました。

オペレーター

ボウズさん、お電話で米印と1を押してください。ボウズさん、接続されました。

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

ありがとう。

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

トニー、もう一度繰り返してくれますか？

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

わかりました。もう一度繰り返します。下半期の製品・サービス・ミックスの移行について少しはっきりさせたかったのですが。これは、製品の販売をより速くサービスに変換できるようになったためでしょうか、それとも製品販売のタイミングの問題に過ぎず、今ではより良いサービスが得られるようになったというだけのことででしょうか？あるいは、一部の機器の成長ベースが下半期で多少遅くなるということでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

機器の生産レートはそのまま継続します。下半期では、例えばインフラストラクチャー事業をご覧ください。下半期にはインフラストラクチャー機器は収益の約43%で、これは昨年度からほぼ横ばいです。サービスは収益の57%を占めています。

基本的には、機器の注文が成長し、過去18ヵ月の成長によって昨年度の下半期にその出荷が増え始めたことが原因です。このため、機器の好調な出荷が継続しますが、昨年度のかなり好調な出荷数量との比較ですので、下半期にサービスと機器のミックスが均等になったわけで、これにより収益性と利益幅の改善が実現されたということです。

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

キース、聞き漏らしたのだったら申し訳ないが、この四半期のガスタービンの販売はいかがでしたか？あるいは出荷は？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

第2四半期にはガスタービンを30台出荷しました。

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

まだ順調な状態を維持していますか - すみません、聞き取れませんでした --

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

そうです。エネルギー事業のページで下半期は基本的にはガイダンスどおりであることを示そうとしましたが、昨年度の下半期の台数を増やそうとしています --

ちょっとお待ちください。今年度下半期の計画には89台あります。昨年度は66台であり、これらはバックログです。以上を踏まえ、我々はガスタービンの計画に非常に満足しています。ガスタービンでは、世界中でかなり堅調な注文活動が繰り広げられています。

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

もし --

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

(複数発言者) 今年度140台に近づけるとしたらかなり好調ですね。利益幅の点からは非常に競争力がありますが、ここでもその設置基盤を構築することになるので今後のサービス事業の成長を促進することになります。

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

そして、まだ時期尚早かもしれませんが、2007年に向けてのガスタービンの販売状況はいかがでしょうか？

キース・シェリン - GE - シニア・バイス・プレジデント兼 CFO

多少増えるでしょう。最終的な数字はまだありませんが、経済活動、入札、そして注文状況を見ると、その原動力の一つは石油・ガス事業の継続的な堅調さであることが分かります。この事業ではガスタービンが必要です。したがって、ここではかなり良いビジネス・モデルがあり、世界各地での商業実績にかなり満足しています。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

投資家の皆様は、追い風成分および長期的により良い比較が得られるという点で、エネルギー事業に対してかなり満足されていると思います。これは相当好調です。コンファレンス・コールを終える前に、弊社の営業活動を取り巻くすべてのダイナミクスに鑑みてプラスチックが今年度の初期に予想したより僅かながら弱いことを考慮しても、その他の事業における堅調な推進力があることをここで繰り返しておきたいと思います。

そのため、第3四半期および通年向けに制定したガイダンスに絶大な自信を持っており、これが投資家の皆様が弊社を好まれる理由であると信じています。これは一連の強いイニシアチブであり、優れた営業チームであり、今日の世界における非常に良い立場にあることを信じています。

トニー・ボウズ氏 - AG・エドワーズ - アナリスト

ありがとう。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ありがとう、ジェフ。ご出席の皆様、お時間を割いていただきありがとうございました。本日のコンファレンスの情報は、議事録と再生共に弊社のウェブサイトからご利用いただけます。そしてジョアナと私は一日中お電話を受け付けております。改めまして、本日はどうもありがとうございました。

オペレーター

皆様、これをもちまして本日のコンファレンス・コールを終了いたします。本日はご出席いただきありがとうございました。電話をお切りいただいて結構です。

免責条項

Thomson

Financial

は、いかなる人物に事前に通知を行うことなく、このウェブサイトに掲載されている文書、内容、またはいかなる情報を変更する権利を留保します。

イベント議事録が作成されたコンファレンス・コールにおいては、企業はいかなる項目に関しても企画または事業見解声明を作成することができません。事業見解声明は、予期される状況およびリスクを伴う可能性および予期せぬ状況に基づきます。実際の業績は、さまざまな重要な要因およびリスクに基づいて作成される業績見通し声明のそれとは実質的に異なる場合があります。実際の業績は当事企業の最新の証券委員会への申告書により具体的に明記されています。事業見解声明は当事企業の独自の判断に基づいたものであり、不正確あるいは不適切である場合があります。したがって、事業見解声明の予想業績の正確性を保証するものではありません。

イベント議事録に記載されている情報は、コンファレンス・コールにおいて当事企業から得たものを原文のまま記録したものです。正確なトランスクリプトを提供するよう心がけておりますが、コンファレンス・コールの内容において実質的な不手際が生じる場合のあることをご了承ください。THOMSON

FINANCIALまたは当該企業は、このウェブサイトまたはいかなるイベント議事録に掲載されてる情報に基づいたいかなる投資または決定に対して一切の責任を負いません。ユーザーの方は、いかなる投資および決定をする前に当事企業のコンファレンス・コールおよび証券取引委員会への申告書を精査されることをお勧めします。

© 2005, Thomson StreetEvents All Rights Reserved.